

小施策評価シート (平成 27 年度実績評価)

施策コード	20	施策名	地球環境の保全と自然との共生	
小施策コード	20-1	小施策名	自然の保護と活用	
小施策 主管課等コード	051000	小施策 主管課等名	環境企画課	
評価責任者名	嵯峨 秀俊		内線番号	8410
評価シート作成者名	千葉 信幸		内線番号	8411

Step 1 小施策の全体像

小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境及び歴史的環境保全計画については、平成 23 年度に策定した盛岡市自然環境保全指針を踏まえた改訂を行う必要がある。 また、玉山区を中心に、自然環境及び歴史的環境保全条例に基づく環境保護地区などの新たな指定について検討する必要がある。 自然環境及び歴史的環境保全条例に基づき指定している環境保護地区、保護庭園及び環境緑化地区について、所有者・管理者や地域の理解を得ながら管理していく必要がある。 近郊自然歩道 9 路線について、ガイドマップを配布するとともに、環境部ホームページ上に詳細なコースマップや花暦、鳥暦などを掲載している。今後も適切な維持管理を行い、利用者の利便及び安全確保に努めるとともに、盛岡の豊かな自然環境を広く発信する必要がある。 近年、ツキノワグマやニホンジカなどの野生動物が市街地にも出没するケースが増えており、市民の安全・安心の観点からも関係機関が連携して野生動物の適正な保護・管理を図り、生物の多様性を確保する必要がある。
取組の方向性	盛岡が誇るうるおいや安らぎをもたらす里山の緑、きれいな水や空気を生み出す森林、河川の清らかな水辺など、かけがえのない自然や多様な生物が生息する環境を適切に守り、次世代に引き継ぐとともに、自然に親しむ機会を増やし、より多くの人々が自然を感じられるような環境づくりを進める。
対象 <small>(誰(何)を対象として行うのか)</small>	身近な自然、森林・水源、その他（動植物）
意図 <small>(対象をどのようにしたいのか)</small>	自然が守られ、自然に親しむ機会が多くなる。

Step 2 成果指標の推移

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標，↓：数値を下げていくことを目標とする指標，→：数値を維持することを目標とする指標)

指標項目	単位	25年度 実績 (現状値)	27年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
A 近郊自然歩道設置総延長 (↑)	km	46	46	51	51
B 市内の公立小中学校及び市立社会教育施設で実施される自然体験，自然との共生に係る環境教育，環境啓発事業等への参加数 (→)	人	38,603	-	39,000	39,000
C 市域における山林・農地等の面積 (→)	ha	36,242.9	36,262.9	36,262.9	36,262.9
D 近郊自然歩道に係る巡回・作業日数 (→)	日	6	4	6	6
E 近郊自然歩道に係る従事者数 (→)	人	32	34	32	32

Step 3 市民ニーズの把握

市民アンケート調査によると山並みの緑やきれいな川の流れなど，自然が守られていると思うと答えた市民の割合が82.6%であることから，より一層の施策の推進が求められている。

Step 4 役割分担分析

1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の役割の状況	市	<ul style="list-style-type: none"> 基礎調査の実施や分析及び諸施策の展開を図るとともに、市民、事業者の周知啓発に努め、自然環境の保全を推進する。 現行の制度や施策を維持するとともに、近郊自然歩道の整備など市民ニーズに即した事業展開が求められる。 	30
	国・県・他自治体	<ul style="list-style-type: none"> 諸情勢の変化に対応した新たな施策を推進するとともに、情報の共有化を図る。 財源移譲等による市の施策展開への支援が求められる。 	20
	市民・NPO	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な自然保護への意識付けや自然環境の保護に向けた具体的な行動が求められる。 現在の自然環境を次世代に引き継ぐため、市民一人ひとりの保全に関する意識付けと自然を守り親しむ具体的な行動が求められる。 	25
	企業・その他	<ul style="list-style-type: none"> 事業活動を通じた自然環境への配慮が求められる。 市民の環境保全の意識をサポートする企業活動が求められる。 	25

2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

国・県の支援を求めながら市民ニーズに対応するために現状を維持する。

また、登山道・ハイキング道路は、毎年継続的に維持管理を実施しなければ、利用出来なくなることから、現状維持の形で取り組む必要がある。

Step 5 成果・問題点の把握と改革改善案

1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

(1) 小施策の中で成果をあげた点

- 近郊自然歩道の問合せが多くなったことから、利用者が増加しているものと思われる。
- 登山道への倒木や枝の排除、草刈り、案内板の補修等により、安全に利用していただけるようになった。

(2) 成果をあげた要因

- 近郊自然歩道ガイドブックを増刷して周知に努めたため。
- 地元との協力、市において人件費等、助成しているため。

(3) さらなる成果向上に向けて取り組むべき課題（課題がある場合に記載）

- ・ 補助金額が事業開始当時から半額以下になっていることから、これ以上補助金額が減額されることなく、維持していただきたい。
- ・ 草刈り等維持管理を継続して行う必要がある。

2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

(1) 小施策における現状の問題点

玉山地域には環境保護地区や近郊自然歩道が設定されていない。

(2) 現状の問題点が生じている原因

合併して10年経過したが、玉山地域の自然資源が十分に活用されていない。

(3) 分析した原因を踏まえて取り組むべき課題

環境保護地区や近郊自然歩道について、住民のニーズに応えるために、新規設定を検討する。

3 改革改善案（上記1(3)及び2(3)で設定した課題に対する具体の取組）

玉山地域の自然資源の調査を行う。

Step 6 小施策と構成事業の関係性

1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業
該当事業なし。

2 1で記載した事業についてその理由

3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）